

全体 目次 前回 次回 略解 樋口さぶろお^a 更新 Time-stamp: "2003/10/02 Thu 12:16 hig"

1.7 先週の quiz

quiz 略解 1

ご意見ありがとうございました。

quiz 略解 2

2 回積分すると, $x(t) = \cos(t) + C_1 t + C_2$. 初期条件 $x(0) = 1, v(0) = 0$ より, 積分定数を決めて $x(t) = \cos(t)$.

quiz 略解 3

加速度は, $v(t)$ を t で微分して $a(t) = \frac{dv}{dt}(t) = -4 \cos(4t)$.

^aCopyright ©2003 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

位置は, t で積分して $x(t) = \frac{1}{4} \cos(4t) + C$. 初期条件 $x(0) = 1$ より
 $C = \frac{3}{4}$. $x(t) = \frac{1}{4} \cos(4t) + \frac{3}{4}$.

2. 変数分離型微分方程式

今日の目標

- 空気抵抗の力 (だけ) を受ける物体の運動方程式が書ける
- 変数分離型微分方程式が解ける.

2.1 空気抵抗のある場合の運動

戸田 p.34

空気抵抗だけを受ける, 1次元の運動を考えよう. たとえば, エアホッケーのパックの運動.

物体の受ける **空気抵抗** は, 向きは速度 $v(t) = \frac{dx}{dt}(t)$ と反対向き, 大きさは速さ $|v(t)| = \left| \frac{dx}{dt}(t) \right|$ に比例.

$$\text{空気抵抗の力} \quad |F| = k|v(t)| = k \left| \frac{dx}{dt}(t) \right| \quad (k \text{ は正の比例定数}) \quad (27)$$

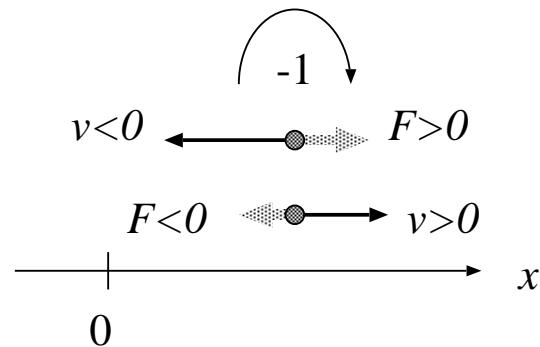
向きまで真剣に考えよう.

$$\text{空気抵抗の力 } F = k \times (\mp 1) \times \left| \frac{dx}{dt}(t) \right| = -k \times \frac{dx}{dt}(t) \quad (28)$$

符号がこれでよいこと. $-$: 物体が右向き, $+$: 物体が左向きの運動.

速度	$\frac{dx}{dt}(t)$	1 行目 $\mp 1 \times \left \frac{dx}{dt}(t) \right $	2 行目 $-\frac{dx}{dt}(t)$
右向き	(+)	$(-) \times (+) = (-)$	$(-) \times (+) = (-)$
左向き	(-)	$(+) \times (+) = (+)$	$(-) \times (-) = (+)$

$-k \times \frac{dx}{dt}(t)$ の $-$ は速度ベクトルと反対向きの力であることを意味.



質量を m とすると運動方程式は,

$$m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = -k \frac{dx}{dt}(t) \quad (29)$$

1 階微分で書こう. $v(t) = \frac{dx}{dt}(t)$ なので,

$$\boxed{\frac{dv}{dt}(t) = -\frac{k}{m}v(t).} \quad (30)$$

しばらくこのタイプの微分方程式の解を考えよう. 微分すると自分の $-k/m$ 倍になる関数って何?

$$v(t) = \boxed{11} \quad (31)$$

2.2 変数分離型微分方程式の解き方

和達 p.66

例題 4

次の性質を満たす関数 $x(t)$ を求めよう.

$$\frac{dx}{dt}(t) = 2x(t), \quad \text{初期条件 } x(0) = 4. \quad (32)$$

(文字 v を x に変えましたが, 深い意味はありません).

間違いの例 1. 両辺を '積分' して,

$$x = x^2 + C. \text{よって } x = \frac{-1 + \sqrt{1^2 - 4C}}{2}. \quad (33)$$

あれっ, x って t の関数 $x(t)$ じゃなかったの?

間違った点:

両辺を t で積分する (両辺に $\int \cdots dt$ をつける) ならよい.

間違いの例 2. 両辺を t で積分して,

$$x(t) = \int 2x(t)dt + C. \quad (34)$$

正しくない点: 13

2 次方程式 $x^2 + 2x + 1 = 0$ の解を $x = -\frac{1}{2}(x^2 + 1)$ と答えるようなもの.

正しい解き方の例

$$\frac{dx}{dt}(t) = 2x(t) \quad (35)$$

まず $x(t)$ を左辺に集める. 今の式には t はないが, あれば右辺に集める.
以下の例題を参照.

$$\frac{1}{x(t)} \frac{dx}{dt}(t) = 2 \quad (36)$$

両辺を t で積分

$$\int \frac{1}{x(t)} \frac{dx}{dt}(t) dt = \int 2 dt \quad (37)$$

ここで,

$$\text{右辺} = \int 2 dt = 2t + C_1. \quad (38)$$

一方, 左辺で変数変換. 変数を t から $s = x(t)$ に変えて置換積分.

$$ds = \frac{ds}{dt} dt = \frac{dx}{dt}(t) dt \quad (39)$$

なので,

$$\text{左辺} = \int \frac{1}{s} ds = \log |s| + C' = \log |x(t)| + C_2. \quad (40)$$

よって,

$$\log |x(t)| = 2t + C' (= 2t + C_1 - C_2) \quad (41)$$

これを整理し, 初期条件を使うと, $x(t) = 4e^{2t}$. (後で黒板でやります)

2.3 覚え方 (この科目の quiz や試験ではこのやり方でいい)

15

$$x(t) = 4e^{2t}.$$

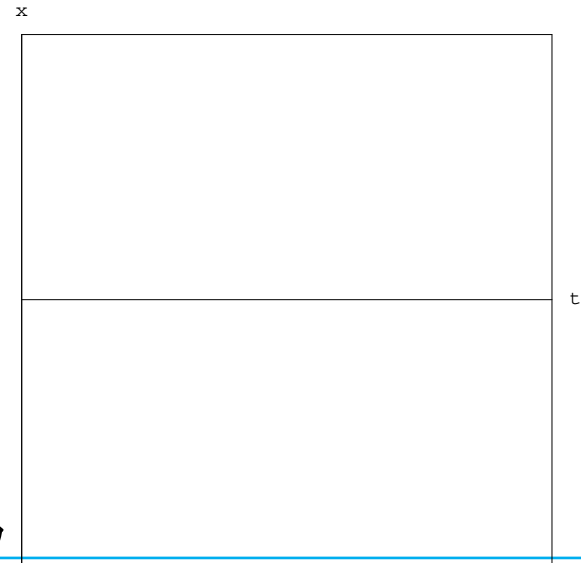
空気抵抗のある場合の運動の解

$$\frac{dv}{dt}(t) = -\frac{k}{m}v(t), \quad v(0) = C \quad (45)$$

の解は

16

グラフ



$$v(t) = Ce^{-\frac{k}{m}t}. \quad (46)$$

2.4 一般の変数分離形

上で見た解き方は,

$$\frac{dx}{dt}(t) = f(x)g(t) \quad (47)$$

のような形 (**変数分離形**) のときに使える.

いままでやってきた微分方程式も, 実は変数分離形と思える. 当面, すべての微分方程式はこの方法で解くと考えよう.

変数分離形でない例

$$\frac{dx}{dt}(t) = t + x(t) \quad (48)$$

右辺が掛け算じゃない.

例. 落体の運動

運動方程式は,

$$m \frac{dv}{dt}(t) = -mg \quad (49)$$

これは変数分離形 ($f(x) = 1, g(t) = -mg$ などと思える). 両辺に dt をかけて

$$dv = -g dt \quad (50)$$

両辺に \int をつけて

$$\int 1 dv = \int (-g) dt + C \quad (C \text{ は積分定数}) \quad (51)$$

$$v(t) = -gt + C \quad (52)$$

例題 5

$$\frac{dx}{dt}(t) = \frac{t}{x(t)}, \quad x(0) = 2. \quad (53)$$

を解こう

quiz 4

次の微分方程式を, それぞれ, 初期条件のもとで解こう.

$$\frac{dx}{dt}(t) = -3x(t), \quad x(0) = 2. \quad (54)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -x(t)^2, \quad x(0) = 2. \quad (55)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -t^2, \quad x(0) = 2. \quad (56)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -1 - x(t), \quad x(0) = 2. \quad (57)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = t \cdot x(t), \quad x(0) = 2. \quad (58)$$